

## 「秘密保護法案」の強行採決に断固抗議し廃案を求める（談話）

2013年11月27日  
安保破棄中央実行委員会  
事務局長 東森英男

11月26日、自民党・公明党・みんなの党は、「秘密保護法案」を衆議院国家安全保障特別委員会での審議を打ち切り、特別委員会と本会議で強行採決をおこなった。

「秘密保護法案」は、国民の目、耳、口をふさぎ、知る権利を侵害する憲法違反の法案であり、2週間足らずの法案審議を通じて、担当大臣の答弁が二転三転するなど、法案の欠陥や問題点が明らかになり、大多数の国民が反対、慎重審議を求めてきた法案である。また、日本弁護士連合会、学者・研究者、日本ペンクラブ、マスコミ、文化人などがこぞって反対を表明した。

この間、21日に東京の日比谷野外音楽堂で1万人を超える反対集会がおこなわれたのをはじめ、全国各地で集会が開かれ、廃案を求める声は、各分野、各層に広がった。また、25日におこなわれた福島での地方公聴会でも7人の公述人全員から反対・慎重審議を求める意見がのべられた。

こうした国民多数の反対、慎重審議を求める声に真っ向から背き、憲法違反の悪法を強行した自民党・公明党・みんなの党の暴挙に断固抗議する。また、採決の際に退席したものの、与党と「修正」を合意し衆議院通過に加担した日本維新の会に抗議する。

私たちは、暗黒社会の再現ともいふべき重大な事態に対して、参議院でのたたかいで広範な共同による国民世論を高め、廃案とするために全力をあげる決意を表明するものである。

以上